

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 8 日現在

機関番号：37502

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010 年度 ～ 2012 年度

課題番号：22520546

研究課題名（和文） 日本語上級聴解 e ラーニングコンテンツの開発およびブレンディッド型授業モデルの構築

研究課題名（英文） Development of the Advanced Listening Contents of e-learning Course in Japanese and Construction of the Blended Learning Model

研究代表者

篠崎 大司（SHINOZAKI DAISHI）

別府大学・文学部国際言語・文化学科・准教授

研究者番号：50331096

研究成果の概要（和文）：本研究では、上級日本語学習者に対する聴解力育成を目的に、オンライン教育とオフライン教育を融合したブレンディッド型授業モデルを構築するとともに、学習者の履修管理から教育の提供、学習状況の把握までを一括管理できるコースマネジメントシステム「Moodle」をベースに、約 1000 問の音声問題と 13 本の動画解説で構成される上級日本語聴解 e ラーニングコンテンツを開発した。

研究成果の概要（英文）：In this study, I constructed the Blended Learning Model which integrates on-line learning and off-line learning aimed to train advanced Japanese listening ability as a second language. Furthermore, I developed the Advanced Listening Contents of an e-learning Course in Japanese which contains about 1000 sound questions and 13 videos. This course is based on the course management system “Moodle” that offers education services and with which one can oversee the curriculum management of students and grasp one’s learning situation all together.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、日本語教育

キーワード：教育工学・教材・教育メディア

### 1. 研究開始当初の背景

現在、日本語教育の分野においては、授業のメインコンテンツとして履修管理から到達度評価までを一括管理できる学習管理システムを有したコースウェアの開発にはまだ至っていないのが現状である。

1980 年代半ばより、学習者の自律的学習の促進を目指して教育現場にコンピュータ

を導入する試みがなされるようになった。しかしながら、その多くは補習ないしは補助教材という位置付けで開発されたもの、あるいは学習コンテンツの提供に止まり学習者の学習管理まで至っていないものがほとんどである。

近年になって e コースの教育効果の検証や本研究のベースとなる Moodle を日本語教育に導入する試みもなされているが、まだ十分

活用されている状況ではなく、今後の進展が期待される。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の3点である。

- (1) 上級日本語学習者に対する聴解力育成を目的に、オンライン教育とオフライン教育を融合したブレンディッド型授業モデル（ブレンディッドラーニングモデル。以下、BLモデル）を構築する。
- (2) (1)の授業モデルを構築するために、学習者の履修管理から教育の提供、学習状況の把握までを一括管理できるコースマネジメントシステム「Moodle」をベースにした上級日本語聴解 eラーニングコンテンツを開発する。
- (3) 授業実験やアンケート調査をもとに、構築した教育モデルの有効性・教育効果および利便性を、学習者と教師の両面から検証する。

## 3. 研究の方法

以下の手順で研究を行った。

- (1) 平成22年ーコンテンツの開発 1  
①コンテンツの概要や課構成の検討、②聴解問題原稿の作成、③音声コンテンツの開発（前半）。
- (2) 平成23年ーコンテンツの開発 2  
④音声コンテンツの開発（後半）、
- (3) 平成24年ーコースの実施と検証  
⑤解説動画コンテンツの開発、⑥付属テキストの作成、⑦筆者によるブレンディッド型授業の実施と検証及び学習者に対するアンケート調査、⑧研究成果発表。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

#### ①インプット系に特化した融合型 BL モデルの構築

まず、BL導入の観点から従来の授業スタイルをインプット系、アウトプット系、インタラクティブ系に整理分類した。

インプット系の授業は、1)正解がすでにある。2)言語知識・受容技能の習得が主。3)暗記・反復練習で習得。4)言語形式の正確さが重視されやすい。5)答えや結果が重要。といった特徴を持つ。

アウトプット系の授業は、1)正解は必ずしもない。2)言語運用能力の習得が主。3)教師とのインタラクションを通じて習得。4)言語の形式・内容がともに重視される。5)答えよ

り過程が重要。といった特徴を持つ。

インタラクティブ系の授業は、1)正解は必ずしもない。2)知の創造や相互理解が主。3)学習者同士のインタラクションを通じて習得。4)言語内容の豊かさが重視されやすい。5)答えより過程が重要。といった特徴を持つ。

さらに、オンライン教育との親和性はインプット系授業が最も高く、アウトプット系の授業がそれに続き、インタラクティブ系の授業が最も低い。本研究では集合学習におけるオンライン教育（eラーニング）の積極的な導入を進めていることから、インプット系の授業の特化した融合型 BL モデルの構築を行った。

融合型 BL モデルとは、eラーニングと対面式授業を一授業の中で融合したモデルで、対面式授業を主とし、授業外にeラーニングを行う講義補充型 BL モデルや、eラーニングによる通信教育を主とし、適宜集合学習を組み込むサイバー型 BL モデルとは異なるものである。このモデルは、学習活動の多くをeラーニングに当て、教師は学習状況の管理と個別指導・支援に専念できるため、教育の効果・効率・魅力の向上を目指しつつ、同時に教師の授業負担を軽減できる点に特徴がある。さらに、一教室空間内で完結することから、教育現場にも受け入れやすいモデルであるといえる。インプット系に特化した融合型 BL モデルを図示すると図1のようになる。

#### オフライン（教師）による個別指導・支援

- ・個別指導
- ・支援（メンタリング）
- ・学習状況の把握・管理

#### オンライン（eラーニング）による一斉指導

- ・学習コンテンツの提供
- ・学習データの収集・管理
- ・定期試験の実施・採点



図1 インプット系に特化した融合型 BL モデル

②上級日本語聴解 eラーニングコンテンツの開発

上記①で構築してきた BL モデルに基づいて、新しい日本語能力試験 N1 (以下、JLPT-1) に対応した上級日本語聴解コンテンツを開発した (図2参照)。



図2 「上級日本語」聴解コンテンツ

概要は以下のとおりである。

●コース概要

目標：JLPT-N1 レベルの聴解力の養成  
 学習者の日本語レベル：JLPT-N2 程度  
 構成：全13回。1課90分程度。  
 使用LMS：Moodle2.2.1  
 授業形態：BLモデルによる一斉授業。

●1課の構成と内容

1課のコンテンツの構成は以下の通りである。なお、第1回はオリエンテーションを兼ねているため問題数を少なくしてある。

- 言葉の聞き取り1 (10問/回。全123問。)
- 「問題1 課題理解」「問題2 ポイント理解」の中からN2レベル以上の語彙、あるいは特殊拍など学習者にとって聞き取りにくい音を含んだ語彙をディクテーション問題として出題。音声聴後、文字を入力して解答する。正解すると次の問題が表示される。すべての問題に正解すると、次のコンテンツに進むことができる。(図3参照)。

出題例

( )の中に入る言葉を、音声を聞いて答えなさい。答えはすべてひらがなで答えなさい。

( ) 遠くの店に行く。

答え：わざわざ  
 レスポンス：正解です。

図3 「言葉の聞き取り1」出題例

- 文の聞き取り1 (10問/回。全123問。)
- 先の「言葉の聞き取り1」と同じ要領で出題。句や文レベルの聴解力の向上を図る。すべての問題に正解すると、次のコンテンツに進むことができる。(図4参照)。

出題例

( )の中に入る言葉を、音声を聞いて答えなさい。答えはすべてひらがなで答えなさい。

これ( )。

答え：かってこいっていった  
 レスポンス：正解です。  
 漢字で書くと「買って来いって言った」です。  
 「～って言った」:「～と言った」

図4 「文の聞き取り1」出題例

- 問題1 課題理解 (3問/回。全37問。)
- JLPT-N1の出題形式に沿って出題。解答すると正解・不正解に関係なく次の問題が表示される。すべての問題に解答すると、次のコンテンツに進むことができる。
- 問題2 ポイント理解 (4問/回。全49問。)
- 「問題1 課題理解」に同じ。
- 動画解説1 (20分程度。)
- 「問題1 課題理解」「問題2 ポイント理解」について動画で解説する。コンテンツは聴解スクリプトと筆者による解説動画をStream Author3を使って編集して構成。一定時間以上連続視聴し、かつ動画の内容に関する質問に正解すると、次のコンテンツに進むことができる。(図5参照)



図5 解説動画画面

- コラム
- 学習意欲の向上を目的に、学習に対する考え方等を示した講義資料を提示。
- 言葉の聞き取り2 (10問/回。全123問。)
- 「問題3 概要理解」「問題4 統合問題」の中から、先の「言葉の聞き取り1」と同じ要領で出題。すべての問題に正解すると、次のコンテンツに進むことができる。
- 文の聞き取り2 (10問/回。全123問。)
- 「問題3 概要理解」「問題4 統合問題」の中から、先の「文の聞き取り1」と同じ要

領で出題。すべての問題に正解すると、次のコンテンツに進むことができる。

- ・問題3 概要理解（3問/回。全37問。）  
「問題1 課題理解」に同じ。
- ・問題4 即時応答（6問/回。全73問。）  
「問題1 課題理解」に同じ。
- ・問題5 統合理解（2問/回。全25問。）  
「問題1 課題理解」に同じ。
- ・動画解説2（20分程度。）

「問題3 概要理解」「問題4 統合理解」について動画で解説する。以下は、「動画解説1」に同じ。

- ・このおもしろい日本語を聴け！

学習者が日本語の聴解活動にさらに興味と関心をもって取り組める動画を紹介。日本語を聞くことそのもののおもしろさや快感を体感することにより、聴解学習に対する統合的動機づけや積極的な学習態度の醸成を促す。

### ③付属テキストの作成

聴解学習を促進するための付属テキストを作成した。（図6、図7参照。）



図6 付属テキスト—表紙

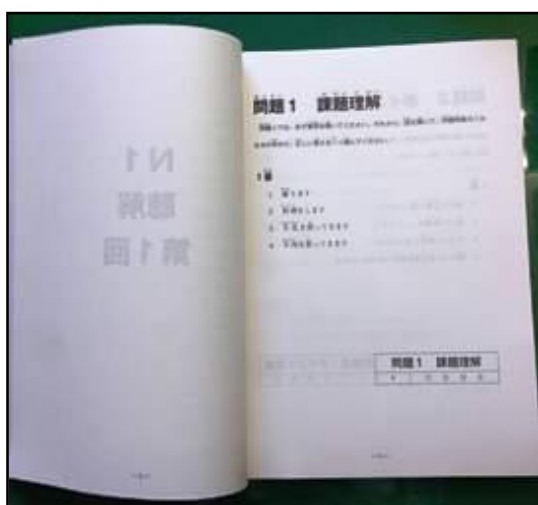


図7 付属テキスト—問題

### ④BL モデルに基づいた授業の実施と検証及び学習者に対するアンケート調査の実施

授業の実施概要は以下のとおりである。

- ・実施期間：2012年10月3日から2013年1月9日（週1回。1回90分。）
- ・授業頻度：週1回
- ・学習者：6名（全員中国国籍。うち1名はすでにJLPT-N1に合格。）
- ・授業形態：PC教室でのBLモデルに基づいた集合学習。

また、授業実施後に行った学習者による授業評価アンケートの結果は、以下のとおりである。質問項目は、選択式が14、自由回答が1、有効回答数は4であった。

表1 授業評価アンケート結果

	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全く思わない
1-1. (あなた自身について) あなたはこの授業によく出席していた。	1	3	0	0	0
1-2. (あなた自身について) 授業を受ける際に、シラバスを利用した。	1	1	1	1	0
1-3. (あなた自身について) あなたはこの授業に熱心に取り組んだ。	1	3	0	0	0
2-1. (この授業について) シラバスは、授業の目的・内容・評価方法を明確に示していた。	1	2	1	0	0
2-2. (この授業について) 授業の進度は適切であった。	1	3	0	0	0
2-3. (この授業について) 授業の内容は興味や関心をひくものであった。	1	3	0	0	0

2-4. (この授業について) 授業はわかりやすいものであった。	1	3	0	0	0
2-5. (この授業について) 先生の熱意(授業の準備・意欲など)を感じた。	1	3	0	0	0
2-6. (この授業について) 先生の話し方は聞き取りやすいものであった。	1	3	0	0	0
2-7. (この授業について) e コンテンツの内容や教師の指導は学生の理解を助けるのに効果的であった。	1	3	0	0	0
2-8. (この授業について) 先生は学生の授業への参加を促す努力をしていた。	1	3	0	0	0
2-9. (この授業について) 授業時間は守られていた。	1	3	0	0	0
	従来の対面式の授業(先生が教科書を解説する授業)		本授業のようなeラーニングの授業(パソコンを使った授業)		
2-10. 従来の対面式の授業(先生が教科書を開設する授業)と、本授業のようなeラーニングの授業(パソコンを使った授業)と、どちらが効果的だと思いますか。	1		3		
	大変よい	よい	普通	悪い	大変悪い
2-11. (この授業について) この授業の総合評価を記入してください。	1	3	0	0	0

3. 以上の質問のほか、この授業について何でもいいので感想を書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本語の聴解に非常に役に立ちました。お疲れ様でした。ありがとうございます。</li> <li>- 毎回、授業でいろいろ新しい知識を身に着けることができます。いいと思う。</li> <li>- ありません。</li> <li>- ない</li> </ul>
--	--

アンケート結果から、本モデルと開発したeラーニングコンテンツは、学習満足度の高いものであることが示された。

### (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

現在、国内においては政府主導のもと、2020年までに受け入れ留学生を30万人にまで増やす、いわゆる留学生受入30万人計画が進められている。

一方、海外においては外務省や文化庁(文部科学省)を中心に、同じく2020年までに海外日本語学習者を500万人にまで増やす計画が進められている。

加えて、法務省入国管理局は2012年、高度人材に対するポイント制による優遇制度を導入し、高度な日本語力を持つ外国人材の入国を推奨している。

本研究で開発した授業モデルおよびeラーニング教材は、そうした政府の日本語教育推進施策を後押しするものであり、国内外の日本語高度人材の育成に寄与するものである。

### (3) 今後の展望

今後は、本研究で開発した授業モデルおよびeラーニング教材を国内外の日本語教育機関に広く提供することによって、教育のICT化および日本語教育の質や魅力のさらなる向上、ひいては国内外の日本語学習者の獲得を進めていきたい。さらに、日本語高度外国人材の育成を進めることによって、日本経済の活性化にも微力ながら寄与していきたい。

また、聴解コンテンツだけでなく、読解や文字・語彙のコンテンツ開発を進めることによって、上級レベルの総合的な学習環境の構築を進めていきたいと考える。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1件)

1. 篠崎大司「新しい日本語能力試験に対応した上級日本語聴解eラーニングコンテンツの開発—ブレンディッドラーニン

グモデルの構築に向けて」,『日本語教育方法研究会会誌』,査読なし,Vol.19 No.2, 2012,pp.52-53

[学会発表] (計 1件)

1. 篠崎大司「新しい日本語能力試験に対応した上級日本語聴解eラーニングコンテンツの開発—ブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて」,第39回日本語教育方法研究会,2012年9月15日,石川県政記念しいのき迎賓館(金沢)

[図書] (計 1件)

1. 篠崎大司,クリエイツ『日本語能力試験 N1 対策 上級日本語 聴解—オンライン版—』,2013

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

1. 日本語 Web 教材 SINOKEN (サンプル版)  
[http://co-creates.heteml.jp/moodle\\_sample/](http://co-creates.heteml.jp/moodle_sample/)
2. 日本語能力試験 N1 合格のためのブレンディッドラーニング教材  
篠研の上級日本語 『文法』『聴解』  
<http://www.sinoken-nihongo.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

篠崎大司 (SHINOZAKI DAISHI)  
別府大学・文学部・准教授  
研究者番号: 50331096

### (2) 研究分担者

小沼俊男 (KONUMA TOSHIO)  
別府大学・短期大学部・教授  
研究者番号: 80442440

(H22のみ)

吉岡泰夫 (YOSHIOKA YASUO)  
別府大学・文学部・教授  
研究者番号: 90200948

(H22→H23)

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号: